

碩心

題字は松井岳洋筆

No.397

平成21年9月

発行

(社)日本詩吟学院岳風会 認

碩心会

発行者 加藤岳洵

編集者 伊藤岳光

神奈川県葉山町堀内206

Te\Fax.046-875-3723

「温習会を終えて」

企画部長 高橋之岳

「閑さや岩にしみ入蟬の声」好きな俳句の一つですが、ここに詠まれたセミは何かとの論争がかつてあったそうです。



山形県が故郷の詩人、齊藤茂吉はアブラゼミを主張しましたが、ニイニイゼミだとの反論があり、茂吉は同句の詠まれた時期に合わせ鳴くセミを調査しました。

79年前の7月だったそうで、結果はニイニイゼミに軍配があがったそうです。

この話を聞き、異論が出された時、どのような行動を取るかで結果は大きく異なり、自説に固執することなく互に意見を出し合うことで、進歩の道が開かれるのではないだろうかと思いました。

企画部の仕事も初吟会、温習会、吟行会とありますが、吟行会は行事に追われ実行する

ことが出来ておりませんが、初吟会は新年会も兼ね親睦に重点をおいております。温習会は日頃の吟の研鑽の発表の場と考え今迄の温習会の見直しの結果、

一、許証授与の時、教場指導者に壇上に並んでいた。

一、テーマ吟を二種設ける。等、皆様には難題をなげかけさせていただきましたが、参加者182名82%、懇親会参加者135名ということで無事終了することが出来ました。内容の変更により好評をいただいたのが懇親会での席決めでした、なんとなく支部で集っていたのが他の支部の方達と話が出来、本来の懇親会が出来たこと、その中で企画部への意見、アドバイス等をいただきました事を次回の参考にしていければと考えております。舞が好きで詩舞から始め、詩文を理解する為に吟の世界に入り、やっと吟の表現の難しさに気がつく昨今です。吟があつての舞、共に表現が一致した時の快感を味わいたく、勉強していきたいと考えております。

行事予定

詩吟体験教室 Let's SHIGU~NI

日時・10月24日(土) 午後1時~2時30分
場所・葉山町立図書館・2階ホール

鎌倉市詩吟舞連盟秋季大会

日時・10月25日(日) 午前9時30分開場
場所・レイ・ウエル鎌倉

葉山町詩吟舞連盟文化祭

日時・10月31日(土)
11月1日(日) 3日(火)

場所・葉山町福祉文化会館ホール

逗子市文化祭詩吟舞発表大会

日時・11月3日(祝) 午前10時~午後4時
場所・逗子文化プラザ「なぎさホール」

皆伝会

日時・11月14日(土) 午前9時30分受付
場所・葉山町福祉文化会館大会議室

吟詠と詩舞の集い

日時・11月28日(土) 午前9時20分開場
場所・葉山町福祉文化会館ホール

冠稱授与

(平成21年7月1日付)

宗師 千葉岳関 中村岳愛
宗匠 村田岳瀨 沼田岳義

輔翼の人 堀埜・内山先生

7月17・18日の両日総本部夏季吟道基礎講座が日本教育会館で開催され、木部理事長から開講式の挨拶で、詩吟のように本来日本の伝統的なものは全て口伝で伝承されている。耳で聞いて体で覚えてもらいたい。

開会の修礼時私達講師陣は後方（正面）を向いて礼をしました。日本民族は正面は尊いものとしており、修礼であるので正面を向いて礼をしましたが、普通の礼を行うのであれば従来どおり互いに正対して礼を行えばよい。今後詩吟は伝統ある精神文化であることを前提にして新しい方針に向かいたい旨がありました。

標記講座では木部理事長から堀埜岳風先生は、木村岳風先生とともに錦心流の琵琶の雅号を持つ仲で、特に日本詩吟学院創立前後に全国を行脚し、未だ組織未完成の中で、北陸の富山県氷見での支援は大変なものでした。

堀埜先生は自分で一つの組織を持っておられ、大変な援助をしながら岳風先生、その他有名な方々を迎え、やがて北陸本部長として岳風先生・日本詩吟学院を助け大変な功労者でした。学院では総本部に輔翼の人として歴代理事長とは別に写真を掲げて毎日掲揚しています。岳風先生は結婚されて奥様が到着し

た翌日から多くの弟子が朝から晩まで出入して詩吟が行われ、地方に出張され、新婚旅行もなく奥様は詩吟未亡人のようであの時淋しかったと言っておられました。

北陸の時は奥さんを連れて行かれ堀埜先生はご夫妻を心からお迎えし援助されました。堀埜先生は氷見市長を長く務められ、北陸青壮年の歌等を作詞されました。

内山岳俊先生も琵琶で、夫々が自分の仕事で大成されましたが、堀埜先生は学生時代に習ったものが奥伝までなり、内山先生はオーケストラの中で琵琶を演奏され昭和48年に文部大臣賞を受賞される程でした。

最近には伴奏・コンダクター等の弊害で吟の余韻に揺りがなく、殺風景になっていくとして、堀埜先生の獄中感有り他を聞きましたが琵琶の哀調を帯びた伴奏のもと情感詩情溢れる吟に心打たれました。

内山先生は、古典をやりながら新しいものに挑戦され、合気道はハワイまで行って公開指導される大家で、詩吟も学院の副理事長を務められ我々を指導してくださり、新内は素人を超えた玄人の世界でした。

内山先生は上田敏が翻訳した落葉を吟界にいち早く持込んだ人でそれ等を聞かせて頂きましたが琵琶に合わせ泣くがごとく情感豊かに吟ぜられ深い感動をうけました。 高見

碩心会夏期吟道講座

第12回夏期吟道講座が8月23日(日)、葉山町福祉文化会館大会議室で開催されました。

開講式で「碩心会の詩」を大合吟し、会長挨拶のあと課題吟に入りました。

上村副会長・絶句2題、内山副会長・律詩、石井岳寿先生（横南吟道会相談役）・和歌2題、和歌には強吟、弱吟の吟詠法があり、感情を入れて詠することが大切であることを学び、会長による漢詩（韻読入り）で、課題吟を終了し、最後に講師に対する質疑応答があり、実りのある一日でありました。 人見

第1回指導者吟道講座開催

去る9月6日(日)、相州岳風連合（碩心会、翔風吟道会、神奈川青嵐会、神奈川誠吟会）主催で横須賀市生涯学習センターに於て標記講座が開催され129名の参加者がありました。

冒頭、加藤会長より「相州岳風連合の詩」の紹介があり、四吟社を代表し作詩された宇都宮岳徳氏が紹介され、模範吟の後、全員で合吟し講座が開始されました。会員相互の親睦と吟技の向上を計って行く点からも有意義な一日であったと思います。詩吟を通して漢詩が作られた時代背景、作者の心情にまでふれた講義は素晴らしいものでした。 伊藤

青壮年吟道大会に参加して

真名瀬支部 佐々木 絵 泉

8月30日(日)、九段会館での全国大会に初めて参加し、緊張と会場の雰囲気圧倒された中の独吟は、本当に良い経験になりました。参加された方々の吟は、素晴らしい声で、詩情豊かに、声の大きさ・間の取り方・強弱の付け方などどれも自分のものにしていて、同じ「泉」の方も、私と同じ雅号とは思えない程素晴らしいです。

これからは、この経験を活かしながら今以上に、努力していきたいと思えます。

第17回

神奈川県岳風連合会吟道大会

滝の坂支部 行 谷 隆 岳

大会は8月2日(日)エポック中原で開催。神奈川県内の認可団体19会・参加者90余名。碩心会は会長以下24名が参加。「朗詠」の大会吟で開会。静岡県岳風連合会長「ロックやジャズもいいが、日本には漢詩・和歌・俳句等日本人の心に訴える良い詩歌が沢山ある。これを詩吟を通して学んでいこう」と粋な挨拶。碩心会の出番は5題。男女混声の合吟は「山行同志に示す」上村副会長先導で吟詠。息合う。コンクール吟。佐藤、山本、私で「水

「碩心」400号 記念原稿募集

昭和12年碩心会発足以来72年が経過し、平成22年3月号をもって「碩心」が400号を迎えます。このため400特集号を計画し、広く会員から原稿募集することにしました。

碩心会の古い歴史をご承知の方は勿論、吟歴は浅いが心を新たにされる方等多くの方々の投稿をお願いします。

原稿は題目2行、支部、雅号1行、本文24行(400字詰原稿用紙)を基準とし、締切りは平成22年1月末日とします。皆様からの投稿をお待ちしております。

広報部

戸八景」連吟。入賞を目指したが練習不足。内山副会長独吟「鶴鶴楼に登る」声響く。構成吟「楠公を詠ず」に磯村岳朋が「河内路上」で詩舞好演。加藤会長等大会役員が「信州」合吟。盛会展に閉会。



熱吟する 左より 佐藤英風・行谷隆岳・山本新岳 各氏

西国観音巡礼の旅

東伏見支部 有 友 嘉 風

ここ数年古希を間近にして枯れてきたのか古寺巡礼にはまっています。心身の安寧を祈願し弘法大師と同行二人、四国八十八カ所お遍路の旅を昨年二年越しで結願した。これに味をしめ今年の春からは西国三十三観音巡礼を一年半の予定でスタートした。ご存知の方も多いと思うが観音巡礼は西国・坂東・秩父あわせて百観音で知られ、なかでも古い歴史をもつのは近畿地方に散在する西国三十三カ所である。千余年前から始められたといわれており歩けば四国お遍路と同じ約千二百キロという。それでも信仰心の篤い人々は一生に一度は巡拝したいと願ったそうである。今回は一番札所の那智の青岸渡寺から十三番の石山寺まで巡拝したがご本尊はすべて十一面、千手など姿は異なるがいずれも世の音を観て、救いの手をさしのべるといわれる観世音である。とりわけ青岸渡寺の秘仏、お前立本尊如意輪観世音はその威光を間近にして身も心もひきしまり感動で鳥肌が立つのを覚えたのだ。この鳥肌は前夜宿を願った同寺で早朝約一時間半、寒さの中でお勤めをした所以ではないのである。これと同じ感動を味わい吟詠できるのはいつの日なのであろうか。

支部紹介

真澄支部近況

真澄支部 佐藤 岳 由

村田岳瀨先生の熱心で厳しい御指導の下、会員26名を2班に分けて、毎週1回、吟の練習に励んでおります。会員は吟道30年以上の者から入会数ヶ月の人まで色々ですが、いつも初心忘れずをモットーに、発声練習から授業が始まります。

授業中は私語を慎み中休みもそこそこに、2時間びっしりの充実した時を過します。昨年は30周年記念の会を催し、碩心会の皆様の温かい励ましに深く感謝いたしました。又、去る6月20日開催の第6回詩吟体験教室に、盛り上げ支部として参加させていたゞき、連吟「山中の月」、合吟「母を憶う」を吟じました。これからも、先生の意欲的な姿勢をお手本に、吟道の精進と会員一同の親睦に留意して行きたいと思っております。



「母を憶う」を合吟 写真 佐藤美風氏

第29回 碩心会温習会決算報告書

収入	金額	支出	金額
出吟料 1,000×191名	191,000	プログラム300部	53,550
懇親会費 1,000×136名	136,000	ホール・集会室使用料	10,075
補助金	60,000	ホール付属設備使用料	22,200
		大会議室使用料	9,000
		計	41,275
		お弁当・お茶 198名	109,890
		オードブル 136名	82,484
		ビール 84本	30,260
		お茶・ジュース 26本	5,214
		計	227,848
		トロフィー (3)	9,517
		コンクール参加賞	7,560
		表彰状・コピー・事務用品	10,949
		通信連絡費	9,000
		会議費	9,980
		交通費	4,000
		傷害保険	5,018
		雑費	6,069
		小計	384,766
		経理へ返金	2,234
合計	387,000	合計	387,000

「デイサービス元氣」への慰問

8月27日、秋のような爽やかな午後、時、葉山町上山口にある神奈川みなみ医療生活協同組合内の「デイサービス元氣」を会員17名で訪問し、詩吟と歌謡吟詠でお楽しみ頂きました。通所者27名の方々は顔見知りの方もおられ私達を笑顔で迎えて下さり以前唐木山支部で指導に当たっていた寺脇宇岳さんは一緒に声を出し詠じられていました。

「昔、学校の授業で習った。」「公民館へ

よく聞きに行つた。」等々...

村上雍岳さんと一緒に「不識庵機山を撃つ」の図に題す」を合吟する顔はお若い頃を髣髴とさせるものがありました。

伊藤

編集後記

11月には「吟詠と詩舞の集い」と名称も新たに一般の方々にも楽しんで頂けるような企画で準備が進められています。全員で盛り上げ楽しい会にしたいですね。新型インフルエンザが全国的な流行期に入り心配されています。手洗い、うがい等の感染防止策が重要だそうです。

広報部

21年9月1日現在	会員数
葉山地区	125名
逗子・大船地区	91名
合計	216名

会員のうごき

*退会

- 24 福本岳辰 (滝の坂) 死亡
- 66 新倉春岳 (一色)
- 215 森 笑子 (渚)

*支部変更

- 123 菊池君風
篁風支部 → 渚支部